

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立西川副小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・本校の課題であった低学力。授業改善に取り組んできたところ、「主体的に取り組む力」「粘り強く学習に取り組む力」5・6年国語では「書くこと」についての伸びが見られた。今後は、ICTの効果的な活用や基礎基本の定着にも更に力を入れていきたい。 ・人権・同和教育、道徳の学習、異学年による縦割り班活動、体験活動などをバランスよくちりばめ、心の教育を推進することができた。いじめの早期発見、早期対応に向けて体制の強化や取り組みの見直しなどを行ってきた。今後は、学習のきまりや生活のきまりの指導に職員間の温度差が出ないようにすることで、安心できる学校づくりにつなげていきたい。 ・郷土を愛する児童を育てるため、保護者や地域と連携した行事や学習を多く取り入れている。コロナ前同様の支援を受けられない取り組みも増えたがPTAや公民館、まちづくり協議会、老人会等と連携を取りながら、活動を進めることができた。今後も、コミュニティースクールを視野に入れて取り組んでいく。		
2 学校教育目標	「よく学び、助け合う、元気な子の育成 へかしこく、やさしく、たくましく、笑顔輝く西っ子～」		
3 本年度の重点目標	・ICTの効果的な活用を通して授業改善に取り組み、主体的な態度、思考・判断・表現力を育む授業づくりに全職員で取り組む。 ・人権・同和教育、道徳科、開発的な生徒指導によって、いじめのない学校づくりに取り組む。学習のきまりや生活のきまりの指導に職員間の温度差が出ないようにすることで、安心できる学校づくりにつなげていく。 ・地域や保護者との連携を図りながら、体験活動を通して川副町を愛する児童の育成に取り組む。		

重点取組内容・成果指標				5 最終評価				
(1)共通評価項目							主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○ICTの効果的な活用	○児童アンケートで「粘り強く学習に取り組んでいる」に肯定的に回答する児童95%以上。 ○職員アンケートで「ICTを効果的に活用し、授業づくりに取り組んでいる」に肯定的に回答する職員80%以上。	・年2回、児童アンケートを実施し、結果の分析を行い、授業の改善に生かしていく。 ・ICTの効果的な活用についての実践報告会を学期に1度行う。	A	・12月の児童アンケートで「粘り強く学習に取り組んでいる」に肯定的に回答する児童が94%で、目標値に近い達成率であった。 ・実践報告会で共有した内容をもとに、各学級での実践を深めることができた。 ・職員アンケートで「ICTを効果的に活用し、授業づくりに取り組んでいる」に肯定的に回答する職員は90%以上だった。	A	「粘り強く学習に取り組む」姿を子ども達と教師が同じイメージを持っておくことが大切。 ・ICTを含め学習環境も整っていいと考えていると思う。 ・放課後の学習に取り組む姿勢は概ねできているが、内容理解となると、充分ではないと言わざるを得ない児童が一定数いる。 ・ICTの活用により子どもたちにとって分かりやすい授業となっており、それが学習に対する意欲につながっているのだからう。	まなび部
	○学習規律の徹底	○児童アンケートで「姿勢良く授業に取り組んでいる」に肯定的に回答する児童90%以上。	・児童への意識付けをする重点週間を設ける。	A	・12月の児童アンケートで「姿勢良く授業に取り組んでいる」に肯定的に回答する児童が90%だった。学習チェック週間を設定する週を増やし、放送で呼びかけなど、児童の意識付けを図ることができた。	A	・先生の話をよく聞き、積極的に意見を述べるなど概ねできている。児童の意識向上に繋がりとでも良かった。 ・指導に温度差が出ないように共通理解・共通実践が大切である。7月の中間評価に比べ、肯定的な回答が90%と2%増となっており、学習チェック週間や放送での呼びかけなどの取り組みが功を奏しているのだからう。今後も継続していってほしい。	まなび部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年3回児童アンケート実施し、肯定的な回答をした児童85%以上。	・児童アンケートを実施し、その結果を全職員で分析し共通理解を深め、教育活動に生かしていく。	B	・「友達と仲良く学校生活をおくっているか」について肯定的な回答をした児童は95%であり、「友達にさんづけやほかほか言葉を使っているか」については90%と目標値を上回ることができた。月目標として指導したり、いいところ見つけカードの実践等もあり、以前より生活場面で意識の高まりが見られた。さらに実践できるように今後も支援していく必要がある。	B	・児童同士仲良く学校生活を送っているように見受けられる。縦割りでの活動も行われていてよい取り組みである。 ・友達へのさんづけや、ほかほか言葉が47%から90%と上がり、目標達成となった。 ・友達のいいところを見つけることは、うれしかったことへの意識につながり、子どもたちの快(こころ)を刺激する良い取り組みだと思う。フィードバックにより自己肯定感も高まると思う。	こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%(3学期実施)以上。	○いじめの対応についての研修・会議を年間に2回行う。 ・月1回の生活アンケートの実施 ・月1回の生徒指導に関する情報交換会の実施	A	・「いじめ防止等について組織的対応ができている」と肯定的に回答した教員は88%と目標値に近い達成率であった。 ・教育センターの資料を使って研修を実施した。素晴らしい行動を全校の児童が共有し、驚かぬ限りであること、毎朝行い行動を日常化していくための具体策等を職員間で共通理解できた。 ・月1回の生活アンケート、1月のいじめに関する児童アンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見解決に向けて取り組むことができた。また、生・生・特・教協議会においては、情報交換を通じた共通理解を前期同様に継続している。	A	・いじめに関してはアンケートや情報共有など良い取り組みをされている。SNSなどにも注意をしてほしい。 ・情報交換を通じた共通理解の継続。 ・スマートフォンの使い方については、保護者へのアプローチも重要だと思う。家庭でのルールづくりとその徹底について、命と直結した問題として保護者への啓発を行ってほしい。	こころ部
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童94%。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童89%以上。 ○「自分が住む佐賀が好き」と肯定的な回答をした児童95%以上。	・地域や保護者と連携した学校行事や学年行事の実施。 ・生活科や総合的な学習、各教科での単元学習の中での取り組み。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は94%。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒は89%。「自分が住む佐賀が好き」と肯定的な回答をした児童は97%と、どの項目においても目標とする数値に到達していた。生活科、社会科、総合的な学習など他教科と関連させ、体験活動も取り入れながら継続的に指導してきた結果、児童の意識が高まったと考えられる。	A	・先生が子どもたちの良い所を認めてる事は、とても良いことと、児童にとって先生が肯定的でない事が、児童自身への意欲にも繋がる。「はめるから、はしめる。はしめる。」という言葉のもと、先生方が子どもたちに向き合わせた結果が数字に表れている。「いいところ見つけカード」同様、子どもたちの自己肯定感の高まり、生きる力の源となっていると思う。	からだ部
	●望ましい生活習慣の形成	●規則正しい生活習慣「早寝早起」の啓発・推進をする。 ○「早寝早起ができている」と回答した児童が85%以上。	・保健便りや生活のきまり、全校・学年集会等での啓発に取り組む。 ・家庭学習ががんばろう週間での啓発をする。	A	・家庭学習ががんばろう週間において、早寝・早起きを目標項目として取り上げ、意識化を図った。学校生活アンケートでは、89%の児童が「早寝・早起きできている」97%の児童が「朝ご飯を食べる」97%と回答し、良い生活習慣づくりにできている。養護教諭と共有し、保健だより等を通じて啓発したことが成果に繋がったと考えられる。	A	・保護者向けアンケートの結果をフィードバックすることで保護者との連携が深められてきた。 ・多くの児童が「早寝・早起き・朝ごはん」を達成できていて、健康的な生活ができている。学年が上がることに身体の発達も標準値を上回っている。朝ご飯を食べずに登校している子が気になる。保健だより等での啓発や関係機関と連携など、様々なアプローチを試してほしい。	からだ部
●健康・体づくり	○安全に関する資質・能力の育成	○児童の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○「交通安全に気を付けている。」と回答した児童が85%以上。	・5月に交通安全教室を実施する。 ・全校朝会、学年朝会、集会活動などの場で、必要に応じて交通安全に関する啓発を行う。 ・下校時の職員による見回りの実施(月に1回程度、特別校時の時等)	B	・4・5・6年生は、保健体育や総合的な学習の一環として自身の命について学習する内容に取り組み、改めて命の大切さについて学びを深めることができた。また年間を通しての避難訓練等を実施した。学校生活アンケートによる「自分の命を守る行動ができる」と回答した児童は95%だった。 ・交通安全に気を付けている」と回答した児童は98%と目標には達成している。しかし児童の交通事故があったり、ヘルメットを着用していない児童も見られたりしたため、継続して指導し、安全への意識を高めていく。	B	・自転車に乗る時はヘルメットを着用しているし、交通ルールを守って登下校できている。歩道いっぱい広がったり、他人の車に石を投げたりしないように指導を続けてほしい。 ・一部の児童がヘルメット未着用で左右の確認が出来ていない所がある。地域や家庭との連携がたいせつである。	からだ部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務改善について話し合う時間を前期、後期で設定する。	B	・校時の見直し、業務管理システムの活用、行事の精選などを通じて、生み出した時間を有効活用する姿が見られた。 ・前年と比べると時間外業務が月平均4～5時間程度削減された。 ・職員の休みが続いたときはチームで対応することができた。 ・アンケートや行事の振り返り等で出た課題の解決案を運営委員会等で話し合い、業務改善を進めた。交通当番や学年便りをなくするなど、それにかいていた時間を子どもと向き合う時間にあてることができた。	A	・教職員の負担感を取り除くことは、子どもたちにとってもよいことである。このまま進めてほしい。 ・児童の下校時刻が繰り上がり、教職員の放課後の時間に少し余裕が生まれている様子。学習にも顔を出してもらってありがたい。 ・課題解決について話し合い、業務改善を進めた結果、児童と向き合う時間に充てることが出来たことが良かった。	管理職
	○働きやすい職場環境づくりの促進	○職員の声を生かしながら働きやすい職場環境づくりに取り組む。	・学期ごとに職場アンケート(毎学期)を実施する。 ・職場環境満足度90%(3学期実施)を目指す。 ・職員による管理職評価を3学期に実施する。 ・年休がとりやすいように声かけや協力体制を仕組む。	A	・アンケート等で、学校運営や学校行事、生徒指導、保護者対応、働き方改革等について職員の意見を聞き、改善や共通理解を深めるなどして学校運営にいかすことができた。職場環境満足度90%を超えることができた。 ・年休がとりやすいように協力体制を仕組んでいた。相互に協力し合う意識が高まっている。	A	・教職員間でも世代による認識の違いはあると思うので、そのギャップを埋め、共通理解を深める努力をされたのだと推察する。 ・大人がイキイキと仕事をやる様子が子どもたちにもいい影響を与えるだろう。	管理職
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員90%(3学期実施)以上。	・特別支援教育に関する研修会や公開授業の実施 ・ケース会議の開催、情報共有 ・SC、SSW、SSFや外部機関の活用による教育相談体制の充実を図る。	A	・特別支援学級の授業公開を行い、職員への特別支援教育についての理解を深めることができた。アンケートを実施したところ、特別支援教育に関する専門性が向上したと答えた職員は100%という結果だった。 ・ケース会議を必要に応じて実施し、組織的に課題に対して取り組むことができた。	A	・特別支援の必要な子どもたちは年々増加しているため、全ての職員が理解を深め、その場面においても適切な支援ができることが必要となっていると思う。ケース会議等の時間の捻出は大変だと思うが、子どもたちのために継続してほしい。 ・専門性向上が100%という結果は、ケース会議など組織的に課題に取り組まれた結果だと思う。	こころ部 特別支援教育Co 教育相談担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○防災教育	○防災に対する児童の意識の向上と対応能力の育成	○災害時等で自分の命を守る行動や判断ができるようになる。 ・「災害時に命を守る行動や判断ができる」と回答した児童85%以上。	・各教科や特別活動などを学習の中で防災教育を実施する。 ・年間を通しての避難訓練等の実施、講師による講演等を通して意識を高める。	B	・各種避難訓練では、地域や児童の実態に合わせて振り返りを行うことで、日頃の備えや人々との協力が必要なことなど意識を高めることができた。 ・「災害時に命を守る行動や判断ができる」と回答した児童95%で目標を上回った。	B	「災害はいつでもどこで起きるか分からない。防災教育や危機管理はとても大切である。 ・学校と学習者で連携した避難訓練も実施できた。災害時に命を守る行動は、実際の訓練が必要不可欠。校区の自治会長や、まち協などの団体また公民館と連携し、日ごろの訓練をして頂きたい。来年度も近隣の幼児施設や住民とともに行事避難訓練を計画していただきたい。」	からだ部 PTA担当 管理職

●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育			
5 総合評価・ 次年度への展望	・一人一台端末を中心としたICTの効果的な活用を通して授業改善に取り組んできたところ、「主体的に学びに向かう姿」や「粘り強く学習に取り組む力」についての伸びが見られた。ほとんどの職員がICTの活用には自信を深め、授業づくりに取り入れることができるようになった。 ・人権・同和教育、道徳の学習、異学年による縦割り班活動、体験活動などをバランスよくちりばめ、心の教育を推進することができた。いじめの早期発見、早期対応に向けて体制の強化や取り組みの見直しなどを行ってきた。学習のきまりや生活のきまりの指導では「共通理解・共通実践」を合言葉に職員間の温度差が出ないようにすることができた。 ・郷土を愛する児童を育てるため、保護者や地域と連携した行事や学習を多く取り入れている。PTAや公民館、まちづくり協議会、老人会等と連携を取りながら、行事の精選や活動内容の見直しを進めることで、実態に応じたものになってきた。今後も、コミュニティースクールを視野に入れて取り組んでいく。		